

第2節

「豊かな人生を支える福祉社会の実現」

一人ひとりの市民が、その生涯を通してそれぞれの生活に合わせた成長発達ができ、いつでも心のほりをもった豊かな人生を送れるよう、保健・医療・福祉の機会を拡充していきます。

また、思いやりのある福祉が充実し地域の活力を維持し増進できる地域社会をめざし、互いに支えあって生きることができ福祉社会を実現します。

～松戸市基本構想 施策の大綱～

政 策 4

～健康に暮らすことができるようにします～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
生きがい感を持っている人の割合	—	80.3%	82.0%	—	80%	80%
	80.3%	80.7%	79.1%	76.5%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

少子高齢化が進展し、高齢者の社会構成割合はますます増加していくため、平成13年度実績値に戻すことをめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
本人が健康であると思う人の割合	—	67.1%	66.4%	—	67%	70%
	66.4%	64.3%	65.2%	66.6%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

高齢化の進展により、健康不安感が高まる傾向にあると推測されるが、関係機関等との連携により、70%をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
健康づくりに関する講座やイベントへの参加者数	—	—	—	—	1300人	1400人
	—	—	879人	729人 (23年度)		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

高齢化の進展も鑑み、平成18年度から21年度の増加率を基に1,400人の参加者数をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
ホームドクター(かかりつけ医)を持つ人の割合	—	—	—	—	60%	65%
	—	—	56.5% (21年度)	56.5%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

「松戸市地域保健医療計画」中間評価のための市民アンケート調査における上昇率を基に65%をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
多様な世代と交流する機会のある人の割合	—	—	—	—	7%	10%
	—	—	5.6% (21年度)	4.5%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

10人に1人が、多様な世代と交流する機会があることをめざす。

政策4

健康に暮らすことができるようにします

1. 生きがいを持ちます

1. 現況と課題

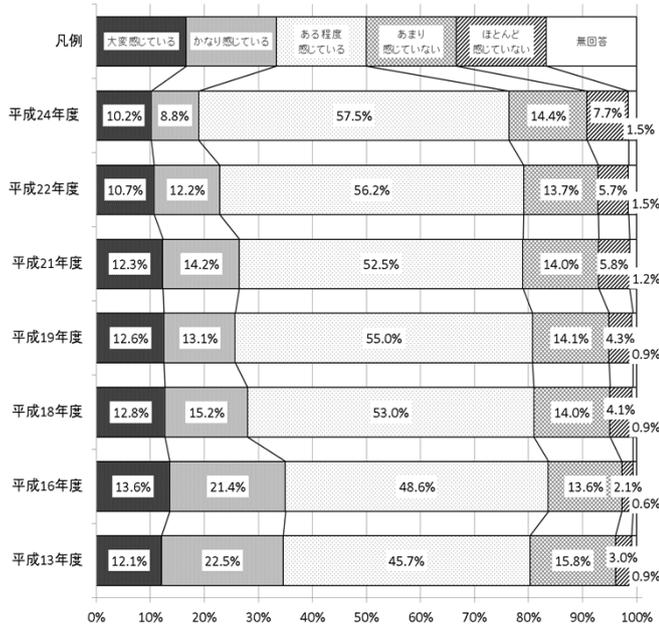
生涯を通して、その人らしい社会参加をすることで、生きがいを持つことは重要です。市民意識調査によると、「生きがい感を持っている人の割合」は、平成13年度80.3%、平成24年度76.5%と比較的高い割合を維持しています。今後も、心身ともに健康を維持することは、生きがい感の向上にとって大切です。これからは、高齢化がますます進むことから、高齢者がスポーツや趣味の活動、地域活動を通して生きがい感をもてるよう支援するとともに、いつまでも働き続けられるよう、雇用就労環境の整備も重要な課題です。

障害のある人にとっての就労は、自分を肯定し社会の中で自信を持って生きてゆくことにつながります。また、途中で障害を持った人にとっては、働くことで健康を取り戻し、自信と希望を回復するという心身のリハビリテーションにつながります。

【特筆すべきニーズの変化】

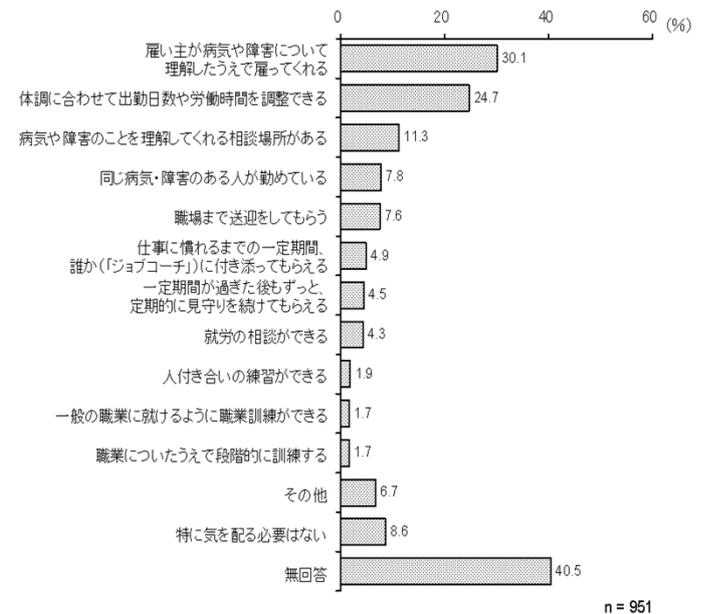
- ① 高齢者の増加に伴い、社会参加できる場の整備が望まれています（ニーズの増）
- ② 障害者に対して様々なかたちでの就労支援が求められています（ニーズの増）

●生きがい感を持っている人の割合



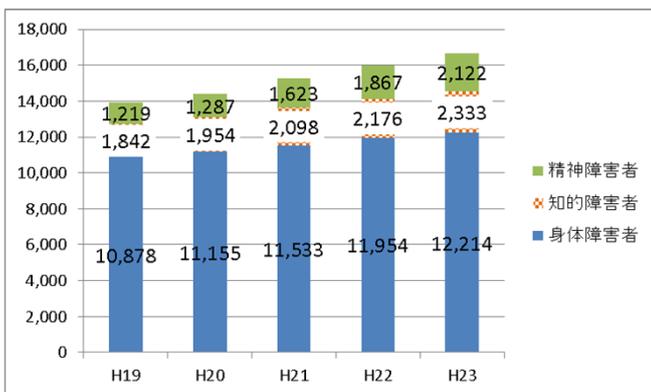
出典 松戸市市民意識調査(24年度)

●障害者が働きやすくなると思う条件のアンケート結果



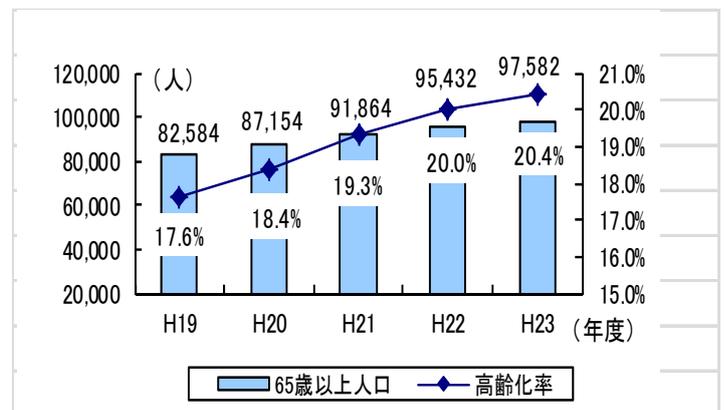
出典 松戸市障害者計画策定のための市民アンケート調査報告書(h24.3)

●松戸市の障害者手帳所持者の推移



出典 障害福祉課作成資料

●松戸市の65歳以上人口と高齢化率



出典 平成20～24年度市政の概要より作成

2. 施策の展開方向

「シニア交流センター」や「老人福祉センター」では、高齢者が、住みなれた地域や家庭において自己の個性や能力を最大限に発揮し、生きがいを持って生涯を過ごすことができるように、様々な高齢者の状況に合わせた支援を充実させていきます。

地域の高齢者の自主組織である「老人クラブ」を地域福祉活動の担い手として、会員の方々にとって魅力ある活動として発展できるよう支援していきます。

高齢者の経験や技能を生かした就労を援助するため、「公益社団法人松戸市シルバー人材センター」を支援します。

障害のある人が、就労の場で、個々の状況にあわせて働くことができるような援助を行うとともに、文化・芸術活動やスポーツ活動などの社会参加の機会の充実を図ります。

3. 施策を推進していく上での課題

高齢化社会の到来によるサービス対象者増加への対応や、市民の生活状況が変化する中で多様化している市民ニーズに的確に対応していく必要があります。

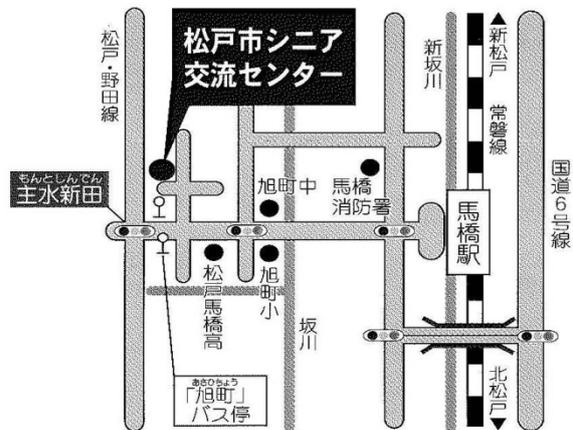
【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① シニア交流センターを拠点とし、高齢者の活動をバックアップしている（強み）
- ② 障害者の就労のマッチングが難しい（弱み）

●松戸市シニア交流センターの概要

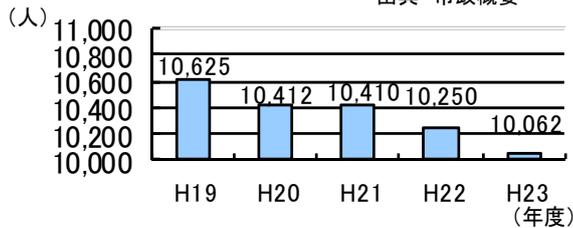
基本理念	はたらく・まなぶ・ふれあう・つどう	
開設年月	平成18年4月	
所在地	松戸市旭町一丁目174番地	
施設概要	RC造3階建 施設面積2,019㎡ 延床面積1,360㎡	
利用時間	毎月第4日曜日、年末年始を除く、 毎日午前9時～午後6時	
【利用実績（平成23年度）】		
大・小会議室	661回	延8,513人
交流サロン	1,135人	
パソコンコーナー	53人	

出典 高齢者福祉課資料



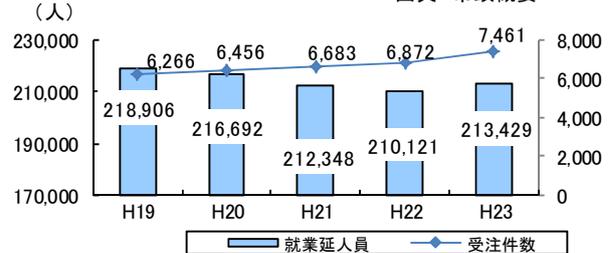
●老人クラブの会員数

出典 市政概要



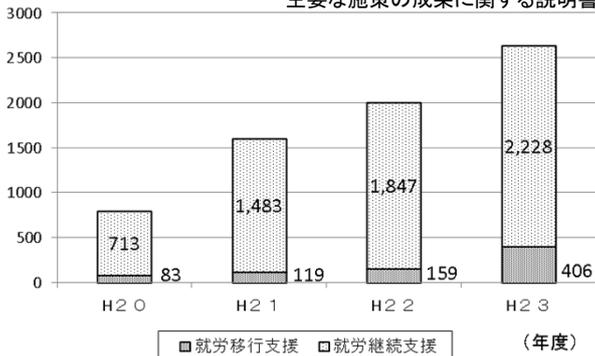
●シルバー人材センターの実績

出典 市政概要



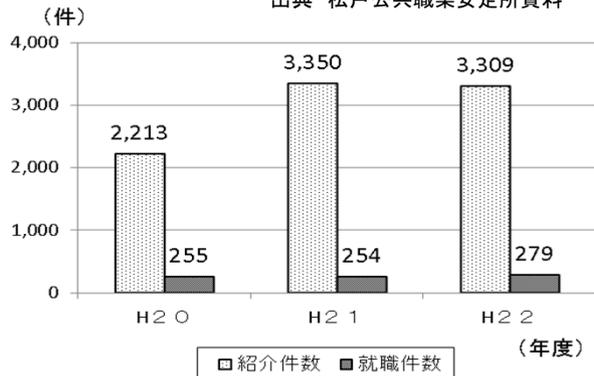
●障害者通所施設の利用状況

出典 松戸市一般会計・特別会計決算
主要な施策の成果に関する説明書



●障害のある人の就労状況

出典 松戸公共職業安定所資料



政策4

健康に暮らすことができるようにする

2. 病気を予防し、早期に発見します

1. 現況と課題

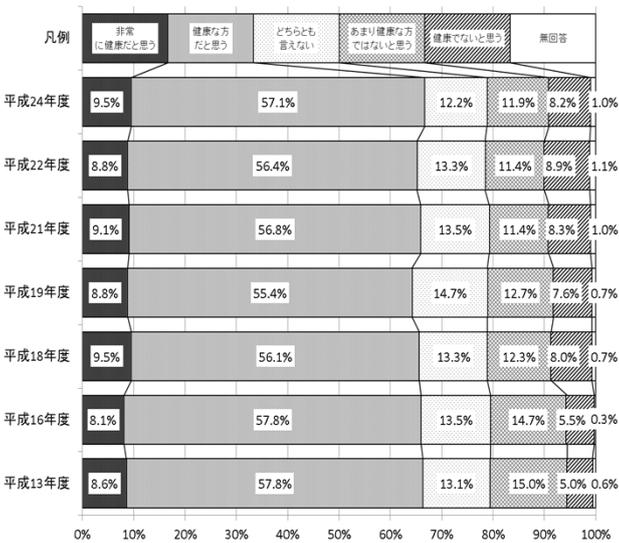
生涯を通して、その持てる能力を発揮し豊かな人生を送るために、その前提となるのは健康です。市民意識調査によると、「本人が健康であると思う人の割合」（非常に健康だと思う、健康な方だと思う）は、平成13年度66.4%、平成24年度66.6%でした。まず、自分の健康を自分で守り、つくる努力をすることが重要な課題です。

なお、高齢化の進展による医療費の増大などの問題からも、重点的に取り組むべき疾病として、国は四疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）を指定するとともに、うつ病や自殺対策にも取り組んでおり、その疾病予防等の重要性は、特に高まっています。

【特筆すべきニーズの変化】

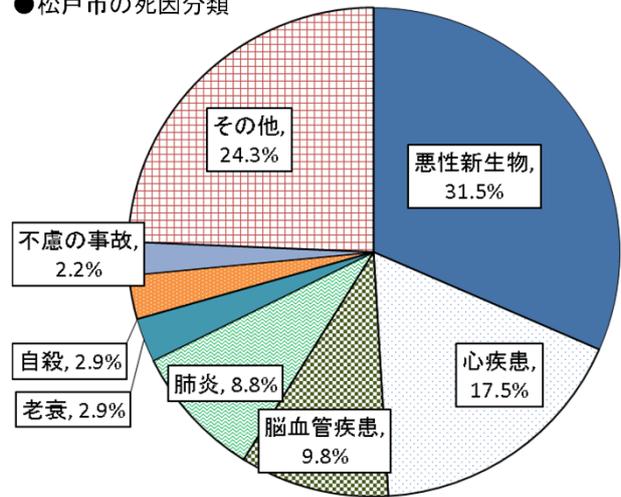
- 市民は健康の維持・増進に関する正確な情報を求めています（ニーズの増）

●本人が健康であると思う人の割合



出典 松戸市市民意識調査(24年度)

●松戸市の死因分類



出典 平成21年度千葉県衛生統計年報

●予防接種の実施状況

類型	根拠法	予防接種名	対象者	実施者	実施率(%)	備考	
一類疾病	予防接種法	BCG	4,006	4,080	(101.9)	個別接種	
		DPT1期	初回	12,117	12,881		(106.3)
			追加	4,039	4,085		(101.1)
		DT1期	初回	0	0		0
			追加	0	0		0
		DT2期	第1期	4,529	3,435		(75.8)
			第2期	4,139	3,920		(94.7)
		MR	第3期	4,020	3,680		(91.5)
			第4期(高3)	4,337	4,084		(94.2)
			第4期(高2)	4,128	3,137		(76.0)
			第4期(高1)	4,222	516		(12.2)
		麻しん	第1期	0	0		0
			第2期	0	0		0
			第3期	0	0		0
			第4期	2	2		(100.0)
		風しん	第1期	0	0		0
			第2期	2	2		(100.0)
			第3期	8	8		(100.0)
			第4期	11	11		(100.0)
		日本脳炎	1期	12,146	14,195		(116.9)
2期	4,295		3,256	(75.8)			
特例	-		6,230	-			
【個別接種小計】		62,001	63,552	(102.5)			
二類疾病	個別接種	急性灰白髄炎(ポリオ)	8,118	5,256	(64.7)	集団接種	
		【一類疾病小計】		65,897	68,778	-	
		インフルエンザ	99,011	44,942	(45.4)	個別接種	
【総合計】		164,908	113,720	-			

出典 保健福祉課事業概要(平成24年度)

●食育に関心がある理由



出典 松戸市市民意識調査(24年度)

2. 施策の展開方向

「自らの健康は自らつくる」ことを基本に、自主的な健康活動を支援するため、健康づくりのための教室や講話などを充実させていきます。

長年にわたる生活習慣に起因する生活習慣病をはじめ、がん、女性特有の疾病など各種健康診査サービスの充実を図り、受診勧奨を行います。

市民一人ひとりの気づきと見守りで自殺を防げるように、心の健康・うつ病や自殺について市民への情報提供と啓発活動を行います。

選食力を養いよくかんで、心も身体も健やかになるよう、健全な食生活に関する指針の普及を図り、ライフステージに応じた食生活の実践を促す食育を推進します。

3. 施策を推進していく上での課題

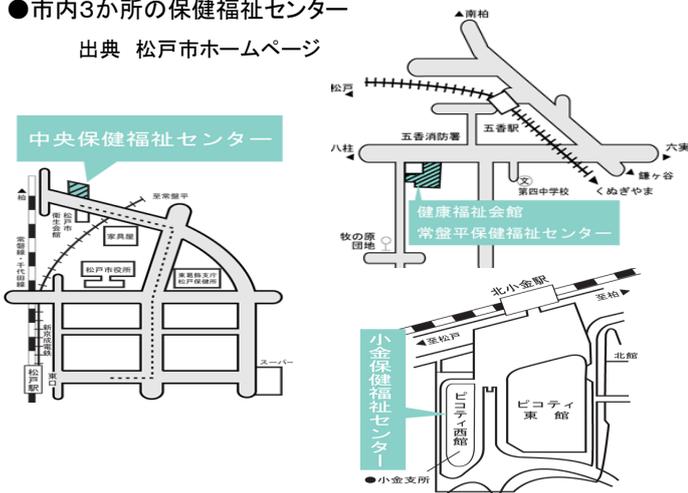
健康に関する各種制度が年々変化している中で、病気の予防や早期発見につなげていくためには、健康相談や健（検）診などの制度をわかりやすく市民に伝える必要があります。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 市の保健福祉センターが3か所あり、健康づくりの拠点となっています（強み）
- ② 市民の健（検）診等の受診率が低く、健康に関心はあっても行動に結びついていない状況がみられます（弱み）

●市内3か所の保健福祉センター

出典 松戸市ホームページ

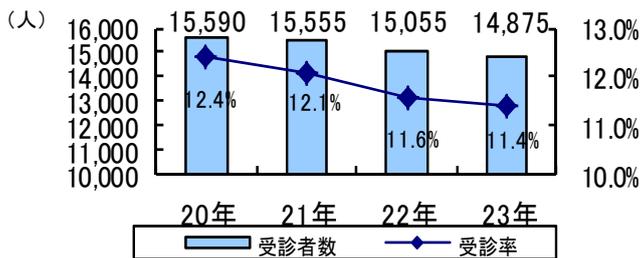


●保健福祉センターで実施している事業

	20～	30～	40～	50～	60～	70～
健康相談	健康相談					
健康教育	禁煙個別健康教育 食生活講座					
健康相談	依頼による健康教育(老人クラブ・町会・婦人会等) 健康づくりセミナー マタニティの腰痛科り予防講座 わんぱく歯科くらぶ保護者					
健康相談					高齢者の食生活講座 高齢者運動教室	
健康相談				健康手帳の交付		
健康相談					骨粗しょう症予防検診(35・40・45・50・55・60・65・70歳の女性) 結核住民健康診断(40歳以上) 健康診査啓発業務(20歳以上女性・40歳以上男女) 子宮がん検診(20歳以上) 乳がん検診(30歳以上、但し集団のエコー検診は35歳から39歳までマンモグラフィー検診は40歳以上) 女性の健康診査(35～39歳) 特定健康診査・特定保健指導(40歳以上の松戸市国保加入者) 胃がん検診(40歳以上) 肺がん検診(40歳以上) 大腸がん検診(40歳以上) 成人歯科健康診査(20歳以上)	
訪問指導	保健師による訪問指導・訪問栄養指導・訪問歯科保健指導					
地区組織育成	健康推進員・食生活改善推進員・食育ボランティア育成・その他ボランティア育成等					
その他	献血推進事業、口腔保健週間事業(歯の健康チェック) 健康づくり啓発事業(松戸市ご長寿ハッピーコンテスト)					

出典 保健福祉課事業概要(平成23年度)

●胃がん検診の実施状況



●広報による周知

出典 保健福祉課健診担当室資料

高齢者インフルエンザ予防接種

☎保健福祉課予防衛生班 ☎366-7484

市が委託する医療機関(下記一覧表)で直接予防接種を受けることができます。インフルエンザ予防接種予約は医療機関にあります。

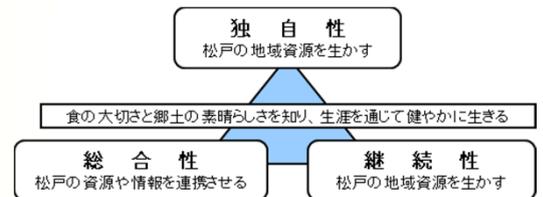
接種期間平成25年1月15日(祝)まで(接種の開始日は医療機関によって異なります) ※県内の他市町村の医療機関(県内定期予防接種相互乗り入れ事業)で接種する場合は、12月31日(月)まで。

対象者市内に住民登録があり、次の条件に該当する人

- 接種当日、満65歳以上(接種は満65歳の誕生日以降)
- 接種当日、満60歳以上65歳未満の人で、心臓・じん臓・呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害があり、この4つのいずれかで1級の身体障害者手帳を持っている人
- 持病健康保険証(年齢、住所地を確認するため) 費用1,000円(2回目とは全額自己負担) ※生活保護受給世帯の人は費用免除(生活保護受給証の提示が必要) ※市外で接種を希望する人は、お問い合わせください。

出典 広報まつど(平成24年10月1日号)

●松戸市における食育推進の3原則



●食育シンボルキャラクター「ぱくちゃん」

出典 松戸市食育推進計画

政策4

健康に暮らすことができるようにします

3. 病気を治します

1. 現況と課題

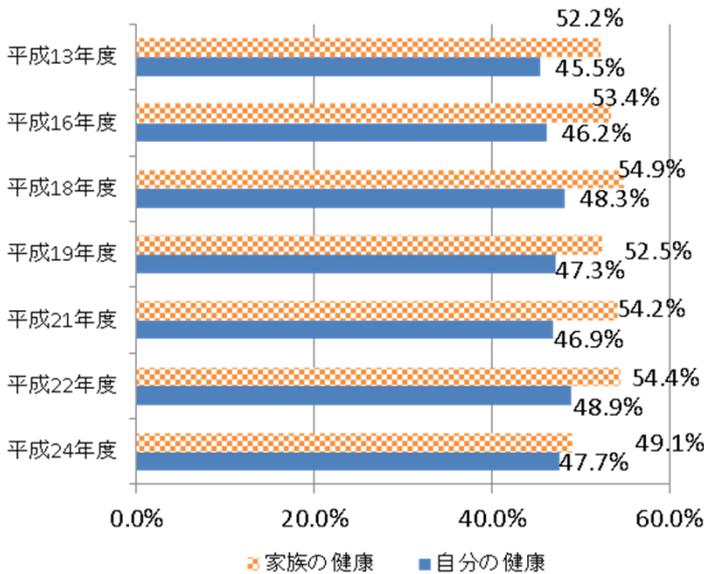
本市には、平成24年3月現在で、東葛北部二次保健医療圏の中核医療機関である国保松戸市立病院を始めとして18の病院があり、一般診療所と歯科診療所を含めると557の施設があります。そのような中で、限りある医療資源を活用し、多様化する医療ニーズに対応するためには、地域の医療機関が役割分担し、相互連携を強化し、地域医療を守っていく必要があります。

また、市民が必要な時に必要な医療を適切に受けられるようにするためには、市民も医療機関の役割を理解し、身近なところに日常的な保健・医療サービスを受けることができる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持つことが大切です。

【特筆すべきニーズの変化】

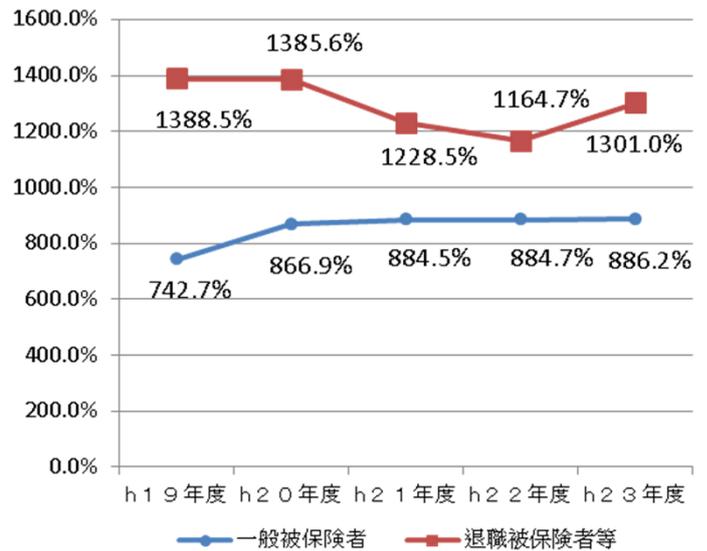
- 健康に不安を抱く市民の割合は多く、安心して受診できる医療提供体制の整備が求められています（ニーズの増）

●市民が抱く健康に関する不安や心配



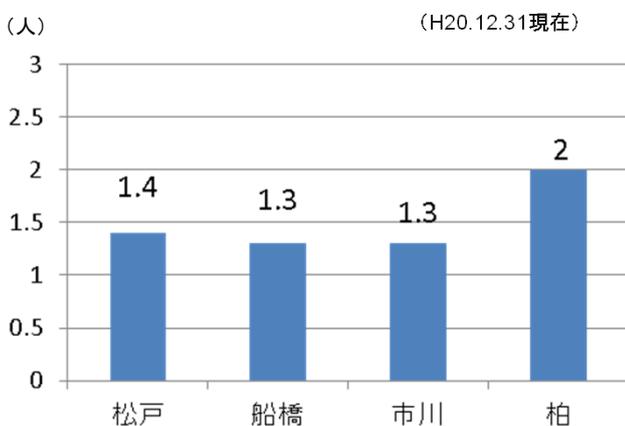
出典：松戸市市民意識調査（平成24年度）

●国民健康保険の受診率

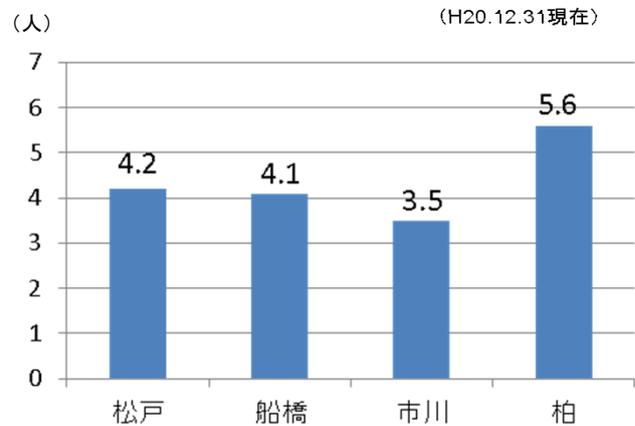


出典：松戸市一般会計・特別会計決算 主要な施策の成果に関する説明書

●人口千人あたり医師数



●人口千人あたり看護師数



出典：千葉県統計指標

2. 施策の展開方向

市民が身近な地域で医療サービスを受けられるよう、日頃から、かかりつけ医をもつように啓発するとともに、地域の中核的な病院と診療所との連携を図り、地域において必要な医療体制の確保を図ります。

松戸市医師会、松戸歯科医師会、松戸市薬剤師会と協力し、急病の時には、休日や夜間であっても市民が安心して医療を受けられる体制を提供します。

3. 施策を推進していく上での課題

限られた医療資源を有効活用するために、1次、2次、3次という救急医療体制が整備されているので、それらの仕組みを市民に理解してもらうことが必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 東葛北部保健医療圏の中核的医療機関としての役割を担う市立病院があり、第3次救命救急医療を提供しています（強み）
- ② 夜間小児急病センターが整備され、市立病院と医師会が連携して診療にあたっています（強み）

●松戸市夜間急病救急医療システム

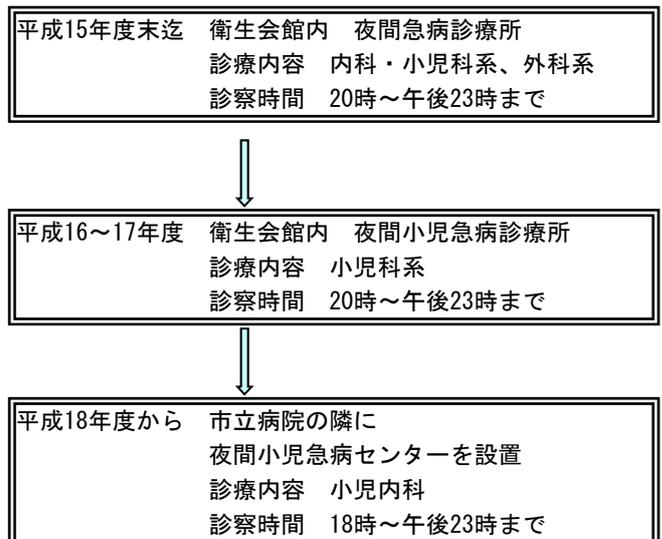
夜間・休日・年末年始等の急病・救急案内



●松戸市夜間急病救急医療システム実績



●夜間小児急病センターの変遷



出典: 松戸市政の概要

政策4

健康に暮らすことができるようにします

4. 受療環境を整備します

1. 現状と課題

我が国は、平均寿命だけでなく、健康寿命（自立して健康に生活できる年齢）も世界で最も長い最高水準の健康国になりました。一方、出生数が減ってきたこともあり、人口に占める高齢者の割合がかつてないほどに高まっています。こうした中、高齢者は医療サービスを利用する割合が高いため、医療費が年々増大し、医療保険事業の運営が困難になっています。

特に、市町村が運営する国民健康保険の加入者は、退職者や失業者等も含め、他の被用者保険制度の対象とならない人すべてを対象としているため、運営が厳しい状況にあります。そのため、本市を含む多くの市町村が一般会計から繰出しを行い、保険料の上昇を抑えて国民健康保険事業を運営しています。

【特筆すべきニーズの変化】

- ・国民皆保険制度の安定的運営が望まれています（ニーズの増）

●国保・政管健保・組合健保の比較

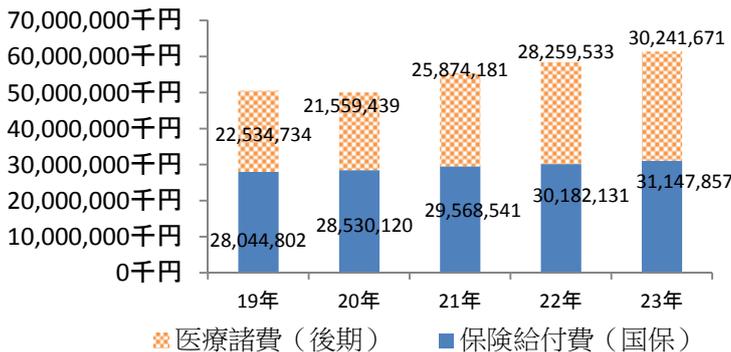
比較項目	市町村国保	政管健保	組合健保
加入者数 (平成22年3月末)	3,566万人	3,483万人	2,995万人
加入者平均年齢 (平成21年度)	49.5歳	36.2歳	33.9歳
老人加入割合 (平成21年度)	31.4%	4.8%	2.6%
1人あたり平均所得 (平成21年度)	91万円	139万円	195万円
1人あたり平均保険料 (平成21年度)	8.3万円	8.6万円	9.0万円
1人あたり診療費 (平成21年度)	29.0万円	15.2万円	13.3万円
年間所得に対する 保険料率	9.1%	6.2%	4.6%

●国保(市町村)の現状

		平成21年度	昭和36年度
被保険者数(年度末)		3,567万人	4,511万人
対総人口比		27.7%	47.0%
1世帯あたり被保険者数		1.8人	4.2人
前期高齢者加入率		31.4%	4.8%(老人加入率)
世帯主職業	農林水産業	3.1%	44.7%
	自営業	16.3%	24.2%
	被用者	35.2%	13.9%
	無職者	39.6%	9.4%
	その他	5.9%	7.8%

出典:国民健康保険の安定を求めて(国民健康保険中央会)

●国保+老保給付費の推移(※H19のみ老保給付費)



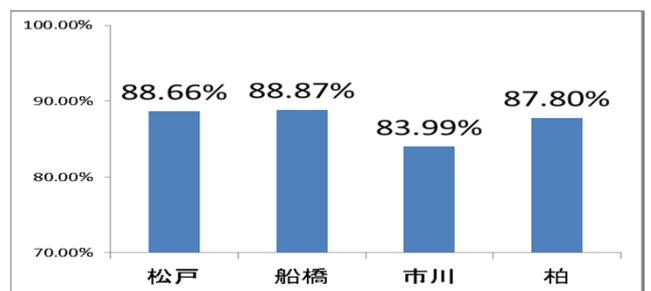
出典:主要な施策の成果に関する説明書

●保険料(医療分)の賦課状況(平成23年度)

市町村名	所得割 (%)	均等割 (円)	平等割 (円)	計(均+平) (円)
松戸	7.52	19,500	18,000	37,500
市川	7.30	12,000	20,400	32,400
船橋	6.50	24,360	0	24,360
柏	5.90	24,000	13,000	37,000

出典:保険課決算資料

●国保の保険料の収納率(平成23年度 現年度分)



出典:保険課決算資料

●国保会計における

一般会計からのその他繰入金(平成23年度)



2. 施策の展開方向

子育て中の家庭や経済的に困窮している家庭でも医療サービスを受けやすくするため各種医療費の助成事業を行い、受療環境の整備を図っていきます。
また、国民健康保険等も適正な事業運営に努めます。

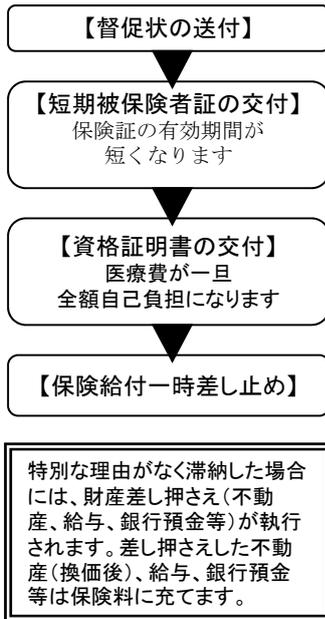
3. 施策を推進していく上での課題

医療費が増加し、現状の医療制度では対応が難しくなっています。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

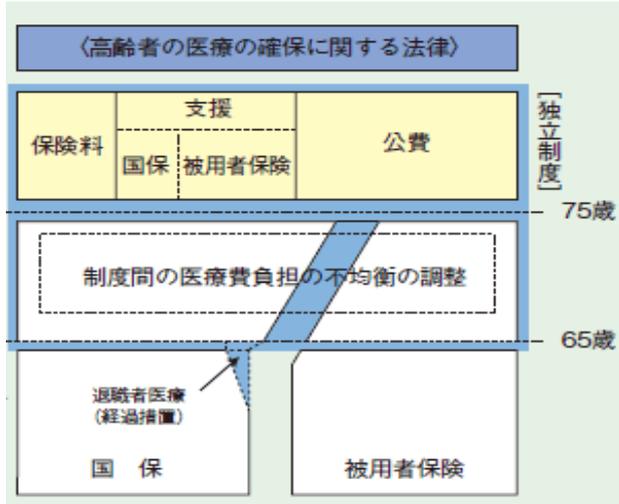
- 国・県の制度以外に市独自の医療費助成制度があります（強み）

●国保の収納率向上対策



出典：松戸市ホームページ

●高齢者の医療の確保に関する法律



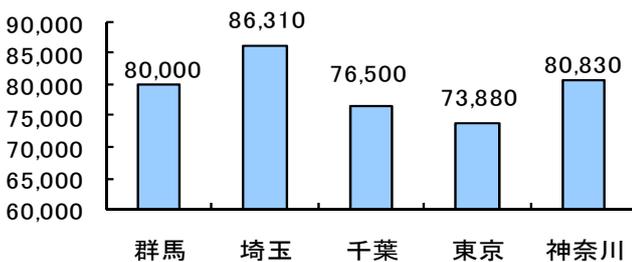
○後期高齢者医療制度

都道府県の区域ごとに当該区域内の全ての市町村が加入する広域連合が保険者となり、75歳以上の者及び65歳以上75歳未満の一定の障害者が被保険者となります。患者負担が1-3割で、残りのうち公費が5割、高齢者の保険料が1割、後期高齢者支援金（現役世代の保険料）が4割で運営されます。

出典：後期高齢者医療制度の概要（厚生労働省）

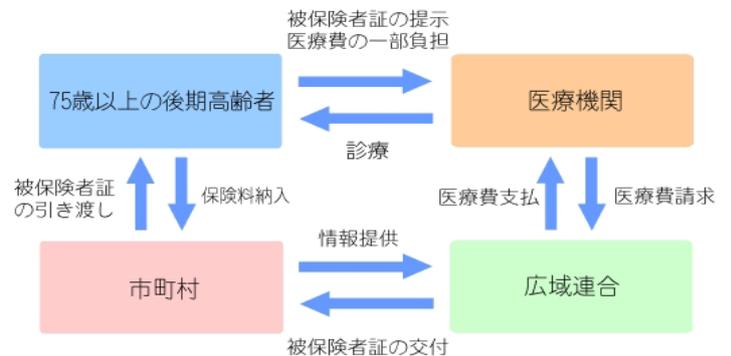
●後期高齢者医療制度の都道府県別保険料

(円)



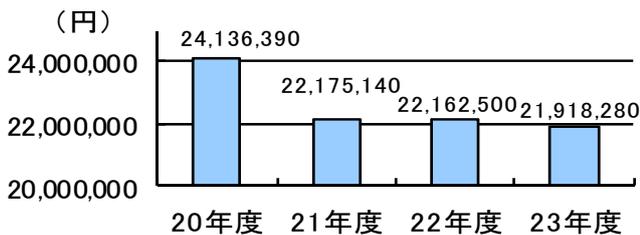
※標準的な厚生年金(年208万円)受給の単身者の場合

●後期高齢者医療制度のしくみ



出典：千葉県後期高齢者医療広域連合ホームページ

●精神障害者入院医療費助成の状況



出典：松戸市主要な施策の成果に関する説明書